

よく「絵本をつくるときは、絵と文章のどっちが先にあるんですか？」と聞かれます。絵と文章が別々な人の場合は、「文章が先」、つまりお話が先と喋っていいでしょう。私がデビューしたきつかけも、ある出版社の編集者が、すでに書き上げられていた「じかきむしのぶん」というお話に、似つかわしい絵の描ける人を探したことはじまりです。

では、絵と文章が同じ人の場合はどうでしょう。どちらの経験もある私はあらためて考えてみましたが、そのときやはりお話が先です。ただ、あるひとつの風景にひかれ、「これを絵本に仕立てるにはどう展開したらいいだろう」と思うことがよくあります。なかなか1冊にはなりません、それが「絵が先」という状態なのでしょう。絵と文章が別々な人でも同じ人でも、絵と文章は、互いに整理さ



れあい、補いあっています。絵本の中にあるものは、すべてが大切な要素なのです。旭川に住んでいた今から2年前、私は北海道日本ハムファイターズ公式絵本となる「もりのやきゅうちーむ ふあいたーず」を出版しました。それからすぐに続編の準備をはじめ、去年から新生活をはじめた名寄で第2弾「もりのやきゅうちーむ ふあいたーず つよさのひみつ」の制作に取り組むことになりました。

その絵本の見せ場となるシーンの1つに、対戦相手の「たべものチーム」がトラクターに乗って登場するという見開きがあります。そこではどんなトラクターに



物語とはどこから来るのでしょうか。私は、「いいなあ」とか、「伝えたいなあ」とか、そういう日々のささやかなもののうちに、何度くり返し読める強い物語があるように思うのです。絵本「つよさのひみつ」の中で実況放送をしているアナウンサーは、名寄市の鳥のアカゲラで、「たべものチーム」に

は名寄が生産地として有名なアスパラがいます。モデルになった街中の赤いトラクターは、今は撤去されましたが、本の中ではいつも元気に走っています。

よく見、よく暮らす。そこには喜びだけでなく悲しみもあるかもしれません。けれど、それさえも見つめる態度が大切です。私たちの「いつも」が、私たちを支えてくれているのです。

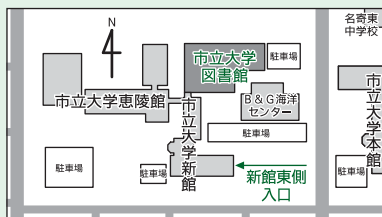
絵本「つよさのひみつ」には、名寄に住んでいたからこそ描き加えられたディテールがあります。そして、私が今まで見聞きしてきた土地のいろいろもあります。「ふあいたーず」の物語を楽しむということそれ以上に、皆さんの暮らしに重なる何かを見つけてもらえたなら幸いです。



**大学図書館へようこそ！**

◆大学図書館は、月から土曜（祝日、年末年始除く）の9時から21時（長期休業中は17時）まで開館しています。

※土曜は新館東側入口から入り直進、事務局手前の階段またはエレベーターで2階に上がり、北側渡り廊下を進んでください。



◆ICチップ付き入館証（兼貸出カード）の発行を希望する方は、平日9時から17時30分までに大学事務局へお越しください。

**大学図書館にはこんな本があります**

～～堀川真先生のそのほかの絵本～～

- 『いのちのいれもの』(小菅正夫/文) サンマーク出版
- 『あかいじどうしゃ よんまるさん』 福音館書店
- ～～北海道内の本・絵本と関わる人々を紹介～～
- 雑誌『スロウ38号(2014)』クナウマガジン
- 特集「本のかたち・心のかたち」

**◆問い合わせ**

- 名寄市立大学事務局 ☎01654②4194
- 名寄市立大学図書館 ☎01654②4199(内線4201)